

平成30年度第1回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日時

平成30年7月20日（金） 午後1時30分～3時30分

2 場所

稲毛保健福祉センター 3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 安西委員、飯田委員、飯高委員、井村委員、上野委員、岡野委員、岡山委員、工藤委員、佐久間委員、鈴木委員、津久井委員、布川委員、長谷川委員、早川委員、古沢委員、別所委員、眞智委員、松川委員、松原委員、三石委員（代理）、宮崎委員
※26名中 21名が出席

(2) 事務局 宮尾稲毛区長、大塚稲毛保健福祉センター所長
稲毛区地域振興課：中臺地域づくり支援室長、薬師神くらし安心室長
地域福祉課：浅井課長、黒木地域福祉班主査、小泉主任主事
社会福祉協議会稲毛区事務所：並木所長、鈴木副所長、平木主任主事
稲毛区高齢障害支援課：水野補佐、藤代高齢支援班主査

4 会議の概要

(1) 委員長・副委員長・広報委員の選出について

本協議会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により、飯田委員長、鈴木副委員長、古沢副委員長、井村広報委員、岩上広報委員を選出した。

(2) 支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）及び稲毛区支え合いのまち推進計画（第4期稲毛区地域福祉計画）について

今期は委員の半数を超える14名が新任となったことから、新任委員の両計画への理解を深めるため、事務局から、両計画の概要について、資料により説明を行った。

質疑応答は以下のとおり。

<意見・質疑応答>

眞智委員	市計画冊子のP191において、社協会員加入口数の稲毛区は「32,392」となっているが、これは加入世帯数と考えてよろしいか。
並木所長	各世帯1口ということで会費をいただいているので、加入世帯数である。
眞智委員	稲毛区の世帯総数は「73,532」、町内自治会加入世帯はその約7割程度の「50,553」、社協加入世帯は世帯総数の半数以下の「32,392」となっているが、社協加入世帯から漏れた人たちはどのようにカバーするのか。

並木所長	社会福祉協議会地区部会だけですべての地域福祉活動を行っているわけではなく、町内自治会などさまざまな地域の団体と連携して、住民同士が支え合うという地域づくりに取り組んでいる。
眞智委員	<p>人口は増えているが、町内自治会の加入世帯数は減少傾向にある。社協の加入口数も同じ傾向にある。自治会などの行政とつながっている組織の中では何とかやっているが、ごみ問題にしても、避難所運営委員会にしても、行政とつながっていない人たちのことをどうやってケアしていくかが非常に難しい問題になっている。</p> <p>この問題を行政としてどう解決していくかについては、平成18年度から推進協の議事録をすべて読んだが、見えてこない。防災については、今年から市職員が積極的に地域に入って、問題の対応策が見えてきている。</p> <p>福祉については、もう少し視点を変えてやっていかないと、地域包括ケアシステムの構築や、2025年問題などさまざまな課題があるが、かなり厳しい問題になると考えている。この点はいかが考えているか。</p>
大塚所長	<p>懸念はごもっともなことだと思う。私どもも課題として認識している。</p> <p>この地域福祉計画は、誰を対象にしているかがわからないとよく言われる。高齢者の計画、障害者の計画などは誰が対象かわかりやすいが、地域福祉計画は特定の誰が対象というのではなく全市民が対象である。社協に加入している人が対象というものでもない。一般の福祉にあまり関係がない人たちも含めて、全市民が一丸となってやっていく体制づくりが今後の課題と考えている。</p>

(3) 稲毛区支え合いのまち推進計画 平成30年度の取り組みについて

事務局から、社会福祉協議会の各地区部会エリアにおける平成30年度の重点取組項目について、資料により説明を行った。

<質疑応答>

布川委員	私が住んでいる園生町は小仲台との境目にあるが、地区部会エリアに入っていないのはなぜか。
鈴木副所長	小仲台東地区部会エリアに入っていると思われる。

(4) 稲毛区支え合いのまち推進計画 平成29年度を取組結果について

事務局から、平成29年度を取組結果について、概ね次のとおり資料により説明を行った。特に、質問・意見はなかった。

【主な成果】

- ・地区部会や町内自治会、民児協などが連携協力し、いきいきサロンの拡充（9か所増）等により、多くの高齢者に対して健康づくりや介護予防の啓発の拡充を図ることができた。

- ・地区部会が社会福祉施設の理解を得る中、新たに地域交流スペースを活用したサロン活動を開始するなど居場所づくりの拡大を図ることができた。

【第3期の総括及び今後の課題】

- ・地区部会をはじめ地域の各種活動団体が連携協力し、幅広い世代層が交流できる機会（イベントなど）を拡充するなど、継続して取り組むことができた。
- ・地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携協力し、いきいきサロンなどを拡充（15か所増）するなど、多くの高齢者に対して健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組んだ。
- ・町内自治会を中心に災害時に備えた防災訓練や避難訓練、避難所運営委員会が継続して取り組むなど、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。
- ・引き続き、地域の各種活動団体が連携協力し、既存の活動を工夫するなどし、幅広い世代層が交流する機会や住民同士の見守り、健康づくり・介護予防の普及啓発など、住民同士がつながりをもてる地域活動を継続していく必要がある。
- ・地区部会をはじめ地域の各種活動団体が相互に連携協力し、地域活動の協力者を確保していく必要がある。

【取り組みテーマ別達成状況】

- ・取り組みテーマごとに、重点取組項目の主な取組実績と達成状況を説明した。
稲毛区全体では、重点取組項目数74に対し、S評価は3、A評価は70、B評価は1、C評価は0であった。

（5）地域福祉活動の紹介について

事務局から、稲毛区内における地域福祉活動について、資料により説明を行った。

- ア 地域食堂（NPO法人と町内自治会が連携した取組）
- イ 地域カフェ（URと町内自治会、民生委員が連携した取組）
- ウ 買物支援サービス（社会福祉施設と町内自治会、民生委員が連携した活動）
 - ①作草部・作草部町エリア
 - ②萩台町エリア
- エ 認知症声かけ訓練
 - ①萩台町エリア
 - ②小仲台エリア
 - ③天台エリア
- オ 支え合い活動（301（作草部・天台）地区部会）

（6）その他

平成30年度の開催スケジュールとして、第2回を11月、第3回を来年3月に開催する予定であることを説明した。

<意見・質疑応答>

布川委員	本日は、子どもや高齢者の話は多かったが、障害者の話はなかなか出なかった。いつ話をしたらいいのか。
飯田委員長	障害者に対する取組みとしては、「支え合いのまち千葉 推進計画」の第7章において、共助に関する取組みを10のテーマに分類しており、そのテーマ3に「障害者を支える仕組みづくり」と書いてある。 地区部会でも、そのエリアに障害者団体があると、一緒に障害者の問題に取り組んでいる事例がある。また、地区部会の中に障害福祉委員会があり、それぞれの地区で活動していると思う。取組みを何もしていないというわけではないが、今回の会議では出なかったということだと思う。
並木所長	障害者に対する取組みは確かになかなか表にでてこないが、地区部会においては、高齢者、児童と同様、障害福祉委員会という専門委員会を設けている。 障害者への取組みとして何をすべきかということもあるので、地域福祉活動の事例でも紹介したが、障害者施設（今回はNPO法人）と連携して、地域の中で地域住民の皆様が交流を図れる場をつくる、一緒になってイベント等を行うなど活動を地区部会と一緒に考えていきたい。また、この協議会の中でも、皆さんのご意見をいただきながら、できるだけ地域の中で取組みが生まれるよう活動していきたいと思っている。